

トヨタを抜いたテスラ 有事のイノベーション期待か

経済ジャーナリスト

八雲豊彦

異端児、イーロン・マスク氏

(49) が率いるテスラが時価総額でトヨタを抜いて自動車メーカーのナンバーワンに躍り出た。市場から資金を集め、革命的な電気自動車（EV）で期待を持たせ、投資家の夢を

はやすテスラ。安全、性能、効率生産で顧客の信頼をベースにしたトヨタを市場価値だけとはいえ頭抜けたのは、不透明なコロナ禍の中で新しい経営のイノベーションが求められている証左かもしれない。

コロナバブルに便乗か

S & P 入りも合格

2020年7月22日に発表されたテスラの4〜6月期決算。最終損益が事前の赤字予想を覆して1億400万ドル（約110億円）の黒字となった。この日の米国市場の時間外取引でテスラ株は終値

に対し一時8%高となった。時価総額は終値ベースで2951億ドル（約31兆6000億円）。7月1日に逆転したトヨタ自動車は約21兆9000億円で1.4倍の差をつけた。

時価総額が爆発的に膨らんだのは、新型コロナウイルスのパンデミックが米国で収束の兆しを見せない中、史上空前の金融緩和でばまかれたマネーの存在も無視できない。テスラも上場し、IT企業がけん引するナスダックが最高値を更新するなど、不思議な陶酔ムードにもあおられている現状も影響しているのは間違いない。

今回の決算で2019年7〜9月期以降、四半期連続の黒字となり、ナスダックからS & P 500 種株価指数に採用される資格を得たことになる。しかし、テスラの自動車メーカーとしての実力は時価総額に見

合ったものだろうか。

新車販売、トヨタの30分の1

つきまとった破綻懸念

テスラの2019年の新車販売台数は約36万7500台と、トヨタグループの約1074万台の約30分の1。にもかかわらず、投資家の人気を集めたのは、斬新なデザインのパックアップトラック「サイバートラック」や、大型トレーラー「セミ」などEVのバリエーションを広げたことに対する投資家の期待だったともいわれる。

テスラはスタンフォード大学大学院を2日でやめたマスク氏が、IT企業のスタートアップで得た巨額の資金を元手に2002年に創業。当時はEVの大規模生産は採算に合わないという声が一般的だった。しかし、マスク氏は2008年10月に会



テスラ社

長兼CEOに就任し、積極経営を展開。話題のスポーツモデル「ロードスター」などで人気を集めたが、高価で販売体制も完備できていたとはいえなかった。

「テスラは次のエンロン」
時価総額でトヨタを抜いた際に、



異端児、イーロン・マスク氏

電力デリバティブ取引で急成長し、2001年に粉飾決算で当時の米史上最大の負債で破綻した電力会社になぞらえられる声も少なくなかった。こうした非難があるのは、従来の製造業の常識を覆す経営のためだろう。

自動車メーカーはトヨタ創業者の豊田佐吉が織機の改良から自動車製造に拡大させたように、技術者が産業へと発展させたのが大半だった。しかし、テスラはマスク氏がペンシルベニア大学ウォートン・スクールで経済学と物理学の学位を取得はし

たが、自動車製造の技術者やセールスマンだったわけではない。

時代が期待する展望を示し、資金集めと開発を先行させ、その後から生産を考えている点が、トヨタやフォード、ベンツ、BMWなどの既存のメーカーと大きく違う。このため、受注に工場計画が追い付かなくなったりすることもあり、経営に危うさがつきまとい、2019年2月ごろまではリストラに追われ、株価も300ドル前後だった。

しかし、その年の後半から急激に株価が上昇。課題だった生産の遅れも挽回した。2020年初めに堅調に生産が伸びていることが分かり、中国工場も本格稼働を始めたことでさらに急騰。破綻懸念が消えないテスラを売り浴びせていたヘッジファンドが買い戻さざるを得なくなったことも加勢し、上場来最高値1135ドルを更新してトヨタを抜いた。

キーワードは環境

AIによるEV全自動運転へ

一方、マスク氏は異常な行動でも



時価総額でトヨタ自動車を抜いたテスラ

いう。テスラは電力企業として家庭向けのソーラーパネルや蓄電池、エアコン、企業や電力会社向けの蓄電池なども提供している。現状ではEVが基幹だが、自動車メーカーにはこだわっていないともいわれている。

会社が時価総額で一定の評価をされるようになった現代にトヨタに後塵を浴びせてみせたテスラ。今も「マネーゲームが生み出した怪物」とも揶揄され、潮目が変わったら急激に株価が暴落することも警戒されている。しかし、マイクロソフトやアップル、日本のソフトバンクなども、従来にない経営は眉をひそめられながら、そうした事実を大手マスコミが控えるようになるまでになった。

コロナ禍の金余りの中で投資家も期待と夢でリスクをとった結果といえなくもないが、テスラが業界地図を塗り替えられるかどうか。先行き不透明な有事に、人々は変わり者を求め、イノベーションを期待しているようだ。当面は試走実験で失敗しながらもAIによるEVの全自動運転のシェア占有を目指しているという。

注目され、2018年4月1日のエープリルフールに「テスラが破綻した」とツイートし株価を最大8%下落させたこともあった。政治的には2017年にドナルド・トランプ大統領の戦略政策フォーラムのメンバーだったが、トランプがパリ協定離脱を表明したことに抗議し、6月に辞任した。

マスク氏のキーワードは環境だと